



令和3年度

# 2月人権一口講座



「夢に向かって挑め!」

「知ってる子から聞いたんだけどね」と息子が話しかけてきた。

『中学3年生の知人が進学にあたって、自分の兄が通う高校を受験したいと親子共々思っていたけれど、進路相談で、「いや、学校推薦で〇〇高校を受験してもらおうから」と自分の気持ちに反して勧められて。で、他校受験するなら必要な書類も出さないと言われ困っているんだ。』と一気に話した。(※市外在住の中学生の話)

今も昔も進学先を決める時には悩みが付きものである。これは人生の岐路のうちの一つであるからだろう。

息子は「行きたい理由があつて自分で決めるのなら自分の責任だし、しっかり親と相談して決めれば親子で歩んで行けるのに」と他人事ながらとても気にしていた。

私の目の前でそう言うって悩む息子は、中学卒業と同時に熊本県外の高校に進学した経緯がある。進学を決めるにあたって親子の葛藤もあつた。しかし、最後は本人の熱意に負けた。「行かせてくださいーお願いしますー」と親に向かい頭を深く下げた姿に折れた。寮に入り3年間を過ごしたが、思い悩んだり泣いたりして家に戻ってくることは1回も無かつた。それどころか土日などは朝から晩まで学校の体育館で練習を重ね、春の全国選抜大会と夏のインターハイでは決勝まで進んだ。

「いろいろな面倒をかけたね。けど、この学校に行かせてくれてありがとう」と、高校卒業時に私に伝えてくれた感謝の言葉に大泣きしたことを覚えている。

今でも、仕事帰りにスポーツ(運動)は続けている。スポーツで多様な人と繋がり、また新たな影響も受け始めている。きっと息子はこれからも自分の世界を広げていくであろう。その中学生ともスポーツを介して知り合っている。息子は受験に係わる話を中学生から聞き、自分が中学・高校時代、周りの人々や環境にどれだけ恵まれていたかと、再認識したようだった。

子どもだって一人ひとり、やりたいことや思い・願いはしっかり持っている。その思いを大人はしっかり受け止め、その子なりの「道」へとつながるよう力添えすることが大切であると私は大きな声で伝えたい。

これから入試シーズンとなります。コロナウイルス等の影響によって、夢や希望が断たれることが無いよう、心残りなく試験に臨んで欲しいと思います。

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」令和三年度 二月号より)

短いメッセージ 優しい言葉と 優しい笑顔で 私の心は 何度も 何度も 立て直せる

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 三和中学校2年 内藤 佑麻さんの作品より